

自由な生活

所沢市立狭山ヶ丘中学校

三年 大串 優芽

私は小さい頃、体の免疫力が低くよくかぜを引いたり熱を出したりしていました。到底この時の私には、税金がどんなものなのか、どのようなしくみのものなのか全く分からず知らずとも思っていなかったでしょう。

私が小学3年生の時にバスケットを始め、接触の多いスポーツなのでケガをすることが多々ありました。小学5年生の時、重度の突き指と同時に成長痛による痛みがひどく、病院に通っている時期がありました。その時から、なぜ学生はお金を払わずに飲み薬やシップをもらえるんだろうと考えるようになりました。その時はまだ若いから、ただ単に払わなくていいのかなと考えていたけれど小6の時に、また同じ指を突き指してしまいました。その時も、お金を1回も払わずに電気を通してもらいマッサージをしてもらったりしました。

そんなある日、ニュースで税金という言葉を目にしました。「税金」。よく聞く言葉でした。またその時父が、「この税金がパパのお給料になるんだよ。」と言いました。父は自衛隊なのでよくそのような話をしていました。その時もまだ、へえ〜そんなんだくらいの感覚ではありませんでした。

そして私が中学生になった時、新品の教科書が沢山配布されました。そういえばなんでお金払ってないのに教科書がもらえ

るんだろうと考えると、それもまた税金によって配布されているのだと知りました。税金は私たちが日常生活を送るために必要な公共サービスなどを提供するために使用されているものなんだとその時知りました。病院や教科書の配布以外にも、私がバスケットをやっている際に深く関わっていたスポーツ施設の整備や、沢山の人が使用する公園、道路や橋の建設・維持など全て税金のおかげで私たちが快適で安全な生活を送れているのだと改めて知ることができました。また税金は社会にでている全ての人が負担しているものであり、私たちも将来社会で働く身として、その負担を理解し責任を持つことが大切だなと思いました。また、それと同じように学生は税金が自分たちの生活にどのように関わっているのかを理解し感謝することが重要だと思いました。将来、自分が社会で働き、収入を得るようになった際には、今私がしてもらっているように、次の学生たちのためにも、社会への貢献を心掛けていきたいと思いました。